

## 「ICT活用の定着化をめざした授業実践」

吉川市教育委員会・吉川市立吉川中学校・吉川市立東中学校

吉川市は「一人1台環境のフル活用～いつでもだれでもどこでも使える環境～」をICT教育のあり方として掲げている。また、そのためには「①使うためのヒトの育成（研修等） ②ストレスなく使えるモノの整備 ③有効なソフトの選択（コト）」が必須条件だと考えている。

学力向上を目指す中で、教科だけでなく、教科外も含めた情報活用能力の育成が重要であり、その育成が結果として学力向上にもつながると考えている。今後も教職員の資質向上のための動画資料の集約化・整備や活用事例の蓄積のために情報教育推進委員会の積極的な運用を目指していく。現在は第1段階である。

### 吉川市立吉川中学校 ～最新のICTを先行配備し、モデル校として実践を促す～

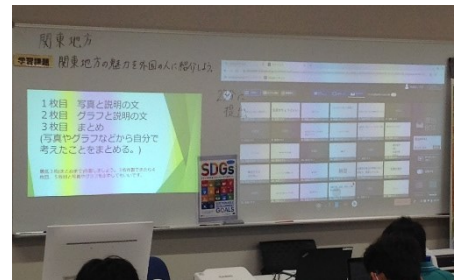
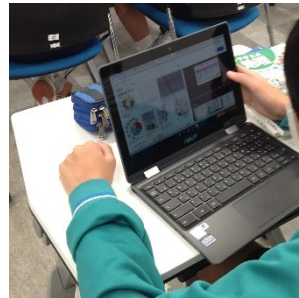
今年度開校した吉川中学校では、市内の小中学校のモデル校になるよう、さまざまなICT機器やソフトを先行で整備した。また、ICT支援員の活用も率先して吉川中学校で活用することが、教師が使うことに抵抗をなくす要因となっている。

#### 1 SDGsを意識した環境教育 ～総合的な学習の時間での実践～

SDGsを基にした環境学習では、ホームページ等を利用して調べ学習を行うだけでなく、学習支援ソフト「ミライシード」を活用したプレゼンテーション資料の作成、クロームブックを使用してのプレゼン等、すべて一つのクロームブックで完遂できるような授業展開をおこなった。

このように簡単にクロームブックを活用しながら発表を行うことで、発表することが「日常化」され、学力向上につながると考えられる。また、来年度は一人一台のパソコンが配備され、PC室以外でも同様の形が可能である。

なお、同様のやり方で、社会科でのまとめ学習として小单元ごとのまとめに毎回このプレゼンソフトを活用している。



#### 2 顕微鏡の画像をタブレット端末で確認する ～理科の授業での実践～

理科の授業では、顕微鏡とタブレット端末をつなぎ、顕微鏡で見ている画像をグループで共有する授業実践をおこなっている。また、スクリーンショットを活用することでその画像を保存・加工し、クラス全体で画像を共有することができた。

すばやく顕微鏡の画像をグループで共有するという点で、ICTの活用は大変有効である。



# 吉川市立東中学校 ～前年までの研究委嘱を継続しての授業実践(数学)～

ICTを利用して効果を上げていくためには、日常的に生徒がICTの基本スタイルを利用し、操作などに十分慣れている必要がある。初めて利用すると、授業の理解よりも、機器操作の習得に時間を割くことになるが、継続して使用することで習得に要する時間は少なくていき、基本的な数学の学びのツールという認識を持つようになっていった。生徒からは「教科書の文字が、順次表示されることで、とてもわかりやすい。」、「自分のペースで、学べるので楽しくなってきた。」という声を聞くことがあった。

## 1 ICT利用の基本スタイルを決めて実践する

東中学校では、事前アンケート等の結果から、「板書をノートに写す時間」を削減することで、「課題を十分に考える時間」を確保するべく、ICTの活用に重点を置き、以下の基本スタイルを実践している。

### ① 導入の場面（課題を把握する）

興味が持てるプレゼンを実施し、課題解決をしようとする意欲を高める。

### ② 課題で自分の学習コースを選択して進める

誰が、どのコースを学習しているかを教師用PCで確認することができる。

### ③ 自分の考えをノートに記入し、それを画像として保存する。

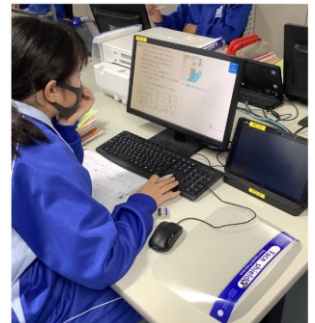
クラス全体で、自分の考えを共有する際に利用する。

### ④ クラス全体で、考え方を共有する。

共有した考えは、後で確認できるように、全員に送信しておく。

### ⑤ まとめの場面で、Google Classroom 中の学びのアンケートを実施し、集計する。

自己評価であり、生徒一人一人の本時の授業の理解状況や、学習の取り組み状況を把握し、事後指導に活かしていく。



## 2 ICTを核にした小中一貫教育の実践

中学校の数学科教員が小学校においてICT機器を積極的に活用した算数の授業を行うことで、小学校の算数の学び方と数学の学び方の連携を図り、学びの連続性を高めている。

### ① 児童・生徒ができた・わかったと実感するための具体的な手立て

- ・ICT(Google Classroom/skymenu)を利用し、学習するコースを選択させる。
- ・同じコースの学習者の中で、話し合い活動をさせる。
- ・PCの画面共有により、他の人の考え方の良さを共有する。

### ② 小学校教育課程との関連性と円滑な接続のための具体的な支援

- ・自分で考え、自分の考えを持たせるために、考える時間を適切に確保させる助言。
- ・学習の様々な場面で、小学校で学んだことを振り返らせることで、課題を提示されたときに、既習の考え方が利用できないかという学びのスタイルを身につけさせる。

### ③ 新たな不登校を生み出さないための具体的な支援

- ・戸惑っている生徒や、参加意欲が見られない生徒に積極的に声かけ支援や一緒に考える支援をおこなう。

### ④ 小学校と中学校の授業展開を統一したスタイルの確立。

- ① 本時の課題を把握する。5分
- ② コースを選択して、各自学習に取り組んでいく。(自分で考える時間) 10分
- ③ 協働学習で自分の考えを確かめる時間 10分
- ④ 自分の考えを発表用に整理し、PCで画像記録する。(自分の考えを整理しまとめる時間) 10分
- ⑤ 全体で、3つのコースの考えを聞き、〇〇の考え方で予想できることを確認する。10分
- ⑥ Google Classroom アンケートによる評価の時間 5分